星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2026 年 10 月 15 日											
氏名	大井 慶太				指導教員名	山田 和政						
掲載内容（　☒学会研究発表　　☐講演講師　　☐その他　）※いずれかにチェック												
学会等開催日：	2026	年	10	月	10	日	～	2026	年	10	月	11	日
学会等名称：	日本転倒予防学会第 13 回学術集会											
学会等開催場所： 国名，都市名，会場名	愛知県名古屋市 ウィンクあいち											
研究･講演タイトル：	寄り添いロボットを使用した高難度バランストレーニングが運動能力と転倒恐怖感に与える影響：無作為化対照試験（RCT）による検証											
発表者名（全員記載）：	大井 慶太，山田 和政 ※発表者は一番前に記入し，自分に下線											
研究概要 （150 字程度）	寄り添いロボットを用いた高難度バランストレーニングが運動機能と転倒恐怖感に与える影響を無作為化比較対照試験にて検証した．通所リハ利用者 22 名を対象に 3 週間介入した結果，最大歩行速度に群と時間の交互作用を認めたが，多重比較検定では有意差を認めなかった．本機器の効果については慎重な解釈が必要である．											
感想その他 アピール欄 （100 字程度）	質疑応答では，バランストレーニングの具体的な介入方法やアウトカムの設定などについて質問をいただき，研究内容をさらに深めるための有益な示唆を得ることができた．今回の発表および質疑応答を通じて得られた知見を踏まえ，今後は研究内容をさらに精査し，論文執筆につなげていきたい．											
写真添付欄 2 枚以内	 											

星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	令和 8 年 9 月 29 日		
氏名	大井 慶太	指導教員名	山田 和政
掲載内容（　☒研究論文採択　　☐総説論文掲載　　☐その他紀要など　）※いずれかにチェック			
論文採択・掲載日：	2026 年 6 月 1 日		
論文掲載雑誌名 巻・号・年	理学療法科学 41・3・2026		
doi	https://doi.org/10.1589/rika.41.63		
タイトル：	日本語版 Mini-Balance Evaluation Systems Test と敏捷性の関係および転倒リスクの識別能		
発表者名（全員記載）：	大井 慶太，水谷 浩二，山田 和政 ※筆頭著者は一番前に記入し，自分に下線		
要旨 （250 字程度）	敏捷性と日本語版 Mini-BESTest の関係を明らかにし，転倒リスクの識別能を検討した．対象はリハビリテーション利用者 31 名とし，4 方向選択反応時間から全身反応時間とステップ時間を算出し，Mini-BESTest との相関を分析した．過去 1 年間の転倒の有無で 2 群に分け，ROC 曲線より AUC を算出し，識別能を比較した．Mini-BESTest は，全身反応時間およびステップ時間と負の相関を示した．各指標の AUC の比較において有意差は認めなかった．Mini-BESTest は，敏捷性と相関するが，転倒リスクの識別能の解釈には慎重を要する．		

星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	令和 8 年 4 月 15 日（水）										
氏名	内屋　純				指導教員名	林　浩之					
掲載内容（　☒学会研究発表　　☐講演講師　　☐その他　）※いずれかにチェック											
学会等開催日：	令和 8	年	4	月	11	日～	令和 8	年	4	月	12 日
学会等名称：	第 38 回日本ハンドセラピィ学会学術集会										
学会等開催場所： 国名，都市名，会場名	博多国際展示場＆カンファレンスセンター（福岡県福岡市）										
研究･講演タイトル:	肘関節骨折術後早期からの装具療法による伸展角度獲得の効果										
発表者名（全員記載）:	内屋純 [1) 2)]，林浩之 [2) 3)]，桝田臣弘 [1)]，棚橋宏行 [4)] [1)] 岐阜県総合医療センター中央リハビリテーション部 [2)] 星城大学大学院健康支援学研究科 [3)] 星城大学リハビリテーション学部 [4)] 岐阜県総合医療センター整形外科										
研究概要 （150 字程度）	肘関節伸展角度の改善を目的として，術後早期より漸次静的装具療法を導入した肘関節骨折患者を対象に，術中および術後 12 週時点の肘関節角度を後方視的に調査した．術後 12 週における肘関節伸展角度は術中と比較して有意に減少しており，漸次静的装具療法による伸展角度の獲得効果は限定的であった．これらの結果から，肘関節伸展角度のさらなる改善を図るためには，他のセラピィ手法の併用や選択が必要である可能性が示唆された．										
感想その他 アピール欄 （100 字程度）	今回の発表を通じて，術後早期からの漸次静的装具療法の効果を再検討する必要性をあらためて認識した．学会では，他施設における肘関節可動域に関する多様なアプローチが紹介され，これらの知見を今後の臨床および研究に取り入れる意義を実感した．今後は，装具療法の効果検証を進め，肘関節の可動域改善を目指した介入のエビデンス構築を図る所存である．										
写真添付欄 2 枚以内											

星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	令和 8 年 2 月 3 日（火）										
氏名	内屋　純				指導教員名	林　浩之					
掲載内容（　☒学会研究発表　　☐講演講師　　☐その他　）※いずれかにチェック											
学会等開催日：	令和 8	年	1	月	10	日～	令和 8	年	1	月	11 日
学会等名称：	第 24 回東海北陸作業療法学会										
学会等開催場所： 国名，都市名，会場名	ウインクあいち（愛知県名古屋市）										
研究･講演タイトル:	上腕骨遠位端骨折の重症度別における術後早期より開始する漸次静的装具療法の効果検証										
発表者名（全員記載）:	内屋純[1)2)]，林浩之[2)3)]，冨山直輝[2)3)]，桝田臣弘[1)]，加藤彩菜[4)]，荻原響[2)4)]，棚橋宏行[5)] [1)] 岐阜県総合医療センター中央リハビリテーション部 [2)] 星城大学大学院健康支援学研究科 [3)] 星城大学リハビリテーション学部 [4)] 東海記念病院リハビリテーション部 [5)] 岐阜県総合医療センター整形外科										
研究概要 （150 字程度）	上腕骨遠位端骨折患者において，術後早期より漸次静的装具を使用した際の肘関節角度の状況を後方視的に調査し，骨折の重症度別における漸次静的装具の効果を探索した．その結果，骨折の重症度に関わらず漸増的な肘関節角度の改善が得られた．また，骨折の重症度による効果に明確な差は認められなかった．										
感想その他 アピール欄 （100 字程度）	本発表を通じ，上腕骨遠位端骨折患者に対して術後早期から漸次静的装具を適応した場合，骨折の重症度に関わらず，拘縮予防に有用である可能性が示唆された．今回は比較対象がなく，漸次静的装具の特性か否かは確認できていない．今後は動的装具群や装具未使用群などの対照群を設け，検討する必要がある．										
写真添付欄 2 枚以内	なし										